

看護職員負担軽減計画（2023年度目標）

看護職員と他職種との役割分担に伴う計画

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
事務部	病棟での対応	病棟での電話対応 病棟でのカルテ製本 病棟での窓口対応	・医師事務作業補助を病棟配置とし処置等の代行入力を行う。	・病棟での事務員の業務は出来なかった。	・医師事務作業補助を病棟配置とし処置等の代行入力を行う。		・医師事務作業補助者の増員、教育
	病棟での対応	・病棟でのカルテ製本、窓口、電話対応は、3-3、3-4はほぼ出来ている。 ・入院他科受診受付は、3-3、3-4はほぼ出来ている。	・病棟との連携を密にし看護業務の軽減を図る。	・業務を実施し負担軽減を図れた。	・病棟との連携を密にし看護業務の軽減を図る。		・医師事務作業補助者の病棟配置を目指す
	入院案内（事務手続き）	入院案内	・引きつづき事務員が入院案内を行う。	・入院案内を事務員が行い看護師の負担軽減に役立っている。 ・全例行った。	・引きつづき事務員が入院案内を行う。		
	外来問診業務	患者さまの事前問診内容を電子カルテに1から記載している	・AI問診を導入した。問診内容をそのままテキスト出力することにより電子カルテに1から問診内容を記載できるため医師・看護師の負担軽減を図る。	・AI問診の事前問診内容をそのままテキスト出力することにより電子カルテに問診内容を直接記載できるため、医師・看護師の負担軽減を図った。	・AI問診で入力された問診内容をそのままテキスト出力することにより電子カルテに1から問診内容を入力せずに済むことにより、医師・看護師の負担軽減を図る。		
薬剤部	薬剤管理（入院）	持参薬セットについては一部のみ薬剤師が行なっている。	引き続き、持参薬セットが早くできるよう持参薬確認を早く行う。セットが時間内であればセットの確認も行う。	持参薬は必ず確認はしている。セットは70%程度は行っている。時間内に持参薬処方せんは発行できている。（翌日確認を入れれば100%実施している。）	引き続き、持参薬セットが早くできるよう持参薬確認を早く行う。セットが時間内であればセットの確認も行う。		・薬剤師の増員 ・看護師との連携
	混注業務（入院）	抗癌剤、TPNの混注は薬剤師がしている。それ以外の混注は看護師がしている。	引き続き必要なコメントは入れていく。今年度より土曜日のTPNの混注は薬剤部で行っている。	必要なコメントの記載はもれなく行っている。土曜日のTPNも2022年度より薬剤部で行っている。	引き続き必要なコメントは入れていく。引き続き、土曜日のTPNの混注も続けていく。		・薬剤師の増員 ・マニュアル・手順書の整備
	退院時薬について	薬剤師不在時間帯における退院時薬の渡薬について	継続して行う。不在時間帯以外の渡薬100%。不在時間帯も、看護師負担軽減のためにわかるようにしていきたい。	不在時間帯でも掲示板に記載するなど、どのように渡すかをわかるようにしている。不在時間帯以外の渡薬についてはほぼ100%行っている。	継続して行う。不在時間帯以外の渡薬100%。不在時間帯も、看護師負担軽減のためにわかるようにしていきたい。		・薬剤師の増員
	手術・検査目的の入院患者の中止薬の確認について	入院前面談を実施している。	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。	依頼がある面談については漏れなく行っている。連絡トラブルによりできなかった面談が数件あった。中止薬の止められなかった件数は0件	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。		・薬剤師の増員
	夜間（薬剤師不在時間帯）の投薬について	看護師と医師のダブルチェックにて薬剤を交付し					

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項	
				達成状況		達成状況		
リハビリテーション科	送迎の強化	入院患者送迎について	・引きつづき入院患者の送迎を実施。	・100%達成。	・引きつづき入院患者の送迎を実施。			
放射線科	放射線科検査の薬剤や器材準備	放射線科検査の準備と後処理の補助をおこなう。	検査の準備・後処理の補助をおこない看護職員の負担を軽減する。	ドック胃透視・透視検査や造影CT検査などの準備、薬剤や器材準備の補助を行いました。	検査の準備・後処理の補助をおこない看護職員の負担を軽減する。		放射線科検査の知識を深め、器材や薬剤の保管場所を把握する。	
	3-2病棟の看護職員不足に対する放射線科検査の送迎協力	外来は看護職員不足だが放射線科は応援さえできていない。			外来の看護職員不足に対し放射線科も応援要請に協力し負担を軽減する。		応援要請内容の確認と状況伝達を受け責任を持って協力を行う。	
臨床検査科			・引き続き、移動困難な患者はベッドサイドでの検査を実施する。	ベッドサイドの検査依頼に対して100%実施。	引き続き、移動困難な患者はベッドサイドでの検査を実施する。		検査機器の充実と技師増員	
						静脈採血、尿素呼吸等処置室業務の実施。		技師増員
			・引き続き、NOガス検査を検査科で実施する。	100%実施。	NOガス、鼻腔通気度検査を検査科で実施。		技師増員	
診療情報管理室	電子カルテの充実を図る。	電子カルテを平成29年度に導入した。	・引き続きテンプレートや様式作成を行い医療安全と看護業務の支援を行なう。	・テンプレートや様式作成などを行い看護業務の支援を行なうことができた。	・引き続きテンプレートや様式作成を行い医療安全と看護業務の支援を行なう。		他職種との打ち合わせを蜜に行う	
臨床工学科	オンコール体制による夜間・昼間の人工呼吸器装着	担当医又は病棟よりオンコールにて対応。又は電話による対応	・待機体制の確立。	・待機体制は確立されていません。緊急時はオンコールで対応。	・待機体制の確立。		・臨床工学技士確保を目指す	
	オンコール体制による夜間・昼間の透析・血液浄化療法の対応	担当医又は病棟よりオンコールにて対応。又は電話による対応	・待機体制の確立。 ・病室での治療のため1名(CE)で対応(常駐)	・待機体制は確立されていません。 ・病室でCE1名で対応。 ・緊急時はオンコール対応。	・待機体制の確立。 ・病室での治療のためCE1名で対応(常駐)。		・臨床工学技士確保を目指す	
地域連携室	地域の医療機関との連携	予約調整時の協力(患者への説明、地域連携室の方から外来、病棟へ出向く)入院・転院予約時の外来サマリーの記入 他院予約票等の電子カルテへの取り込み 処方等各種問い合わせ 地図の準備	・引き続き、予約調整時の状況に応じた患者さまへの説明を実施。 ・入院・転院時の外来サマリーの記入をする。 ・他医療機関への各種問い合わせをスムーズに行う。 ・各種調整時、地連の方から外来、病棟に出向く。 ・予約の取り方等。事前にルール作りや見直しを行い看護師の負担軽減に努める。	・予約調整時状況に応じて患者さまへの説明を行った。 ・入・転院時外来サマリーの記入を行った。 ・各種問い合わせをスムーズに行った。 ・各種調整時、地連の方から外来・病棟に出向き調整を行った。 ・予約の取り方について看護師の負担軽減につながるよう必要に応じ見直しを行った。	・引き続き、予約調整時の状況に応じた患者さまへの説明を実施。 ・入院・転院時の外来サマリーの記入をする。 ・他医療機関への各種問い合わせをスムーズに行う。 ・各種調整時、地連の方から外来、病棟に出向く。 ・予約の取り方等。事前にルール作りや見直しを行い看護師の負担軽減に努める。		看護職員との連携	
看護部 事務部	看護師の離職率の低下 看護師の採用人数の増加	看護師離職は、数字としては昨年とさほど変わらないが、年度末の退職が多かった。 コロナで中止としている見学会に替わり、個別に対応している。見学から採用につながっているケースは多い。	採用ツールの利用や離職防止のための取り組みを検討する	ネット媒体を利用しての、職場を絞っての募集を実施したり、個別に丁寧な対応をすることで採用に繋がっている。 ワークライフバランス推進委員会で、基準日から6ヶ月たった時点の有給休暇の取得状況を各部に配布し、取得状況を確認している。	採用ツールの利用や離職防止のための取り組みを検討する		・看護師および看護補助者、奨学生の確保 ・有休休暇を取得しやすい環境づくり	

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
看護部 事務部	多様な働き方への対応	育児休業や復帰後の制度は、パンフレットを作成して、休業前に周知しているため、ほぼ浸透した。法改正が行われる都度、情報発信は行っており、男性の育児休業の周知を図っている。	各種制度の見直しや定期的な制度周知、利用できる制度の情報発信を行う ・ならし保育 ・3歳までの子を持つ職員の短時間勤務の実施 ・夜勤免除 ・介護休業 ・時差出勤勤務	育児休業復帰者はほぼならし保育を行っており、制度は浸透している。今後も多様な働き方を選択できるよう、定期的な情報発信が必要。	各種制度の見直しや定期的な制度周知、利用できる制度の情報発信を行う ・ならし保育 ・3歳までの子を持つ職員の短時間勤務の実施 ・夜勤免除 ・介護休業 ・時差出勤勤務		・制度周知の為の情報発信
臨床工学科	遠隔モニタリング (CPAP)解析サポート	出来るだけ2~3名のうち、1名で対応している。業務が重なると患者を待たすことになる。					臨床工学技士の確保を目指す。
	血液浄化センターサポート 火・木・土曜日 2クール開設	6月から師長不在。経験2年未満2名。より一層のサポート（穿刺、開始、返血、管理等）	・CE3~4名体制で対応（火・木・土曜日含む）。	・2022年度2~3名体制で対応。 ・火・木・土曜日午後受け入れた。	・CE3~4名体制で対応（火・木・土曜日含む）。		臨床工学技士の確保を目指す。
	気管支鏡（病棟）を工学室で管理する。	工学室→病棟→内視鏡センターで消毒洗浄。備品は中材で消毒。洗浄後、工学室へ返却。部品定数チェック。	・工学室管理続行。	・工学室にて管理	・工学室管理続行。		臨床工学技士の確保を目指す。
	ベッドサイドモニター の点検	使用後は必ず工学室に戻す。点検後は工学技士が各病棟へ配置しに行く。	・終業点検は続行。	・使用後、終業点検は実施した。	・終業点検は続行。		メッセージャーの確保を目指す。
看護部	看護業務	看護学生、看護師、准看護師、ケアワーカーのための見学説明会（隔月）の実施。	・見学説明会の実施と学校訪問、就職説明会へ参加する。	1月から見学会、隔月・希望時実施。計7名の参加があり、内採用4名、奨学生1名、2024年度採用1名に繋がった。学校訪問を継続。	継続、見学説明会は毎月実施（1回/月）		採用広報など管理課と連携する（ホームページ、マイナビ等）。採用につながる活動を目指す。
医療福祉相談室	病棟対応	電話対応 患者、家族への対応 見守り対応（患者不穏時）	電話対応、患者、家族への対応、見守り対応を行なう事で、負担軽減を図る。	・必要時対応した。	電話対応、患者、家族への対応、見守り対応を行なう事で、負担軽減を図る。		
	移送調整	介護タクシーや民間救急の手配を行なっている。	転院や退院時の患者の移送の調整を担い負担軽減を図る。	・行った。	転院や退院時の患者の移送の調整を担い負担軽減を図る。		
	患者、家族への説明	外来、入院の患者、家族へ必要時に説明を行なっている。	看護師からの連絡に速やかに対応し、看護師の対応時間の短縮を図る。	・行った。	看護師からの連絡に速やかに対応し、看護師の対応時間の短縮を図る。		
	救急対応	救急来院患者のうち、背景が複雑な場合には一緒に対応を行なっている。	看護師からの連絡に速やかに対応し、行政や外部関係者との調整を担うことで負担を軽減する。	・情報収集を行い行政等と連絡を取り合いながら対応について報告を行った。	看護師からの連絡に速やかに対応し、行政や外部関係者との調整を担うことで負担を軽減する。		
	記録	カンファレンスの内容を電子カルテに入力している。	カンファレンスの内容を電子カルテに入力することで負担軽減を図る。	・行った。	カンファレンスの内容を電子カルテに入力することで負担軽減を図る。		
栄養科	食物アレルギー及び嗜好調査	食物アレルギーの程度や嗜好で食べられないものがある時の聞き取りを実施、対応している。	情報を集約し、不十分事項については聞き取り、電子カルテ入力、チェック確認を行う。	実施。	情報を集約し、不十分事項については聞き取り、電子カルテ入力、チェック確認を行う。		情報収集 情報共有（資料・マニュアル作成、配布）
	食事形態、付加食など食事変更の相談	患者の摂取状況を見て変更の相談があった場合、量や種類などについて提案している。	情報収集、多職種との連携により、栄養管理を基軸に適切な提案を行う。	実施。	情報収集、多職種との連携により、栄養管理を基軸に適切な提案を行う。		人材育成